

羽ばたこう 立志の丘から



平成30年1月17日

No.33

東北バドミントン大会

暮れも押し迫った12月26日から28日まで、青森県弘前市で第10回東北中学校バドミントン選手権大会が開催されました。

全県秋季大会で、女子個人戦ダブルスで優勝した伊藤・伊藤ペアと、男子個人戦ダブルスで3位となった加藤・田村ペアが出場しました。加藤・田村ペアは1回戦で、ファイナルセットまでもつれ込みましたが、惜しくも敗れてしまいました。女子の伊藤・伊藤ペアはシードで2回戦からの登場でしたが、こちらも残念ながら敗れてしまいました。折からの悪天候の中、朝早くから出かけた選手、保護者、指導者の皆さん、お疲れまでした。東北大会レベルの経験は、参加選手はもちろんのこと、バドミントン部全体のこの後の練習、試合にきっと生かされるものと思います。期待しています。



新春からうれしい話題

年明け早々からうれしい話題がありました。秋田県造形教育研究会が主催する「第58回秋田県児童生徒美術展」に出品していた3年生奏輪学年の皆さんの作品「新たな一歩を踏み出す靴」が最高賞に値する「話題作」に選ばれました。おめでとうございます。



この美術展は、1月6日から9日までに秋田市文化会館で開かれた展覧会でした。(会期をお伝えできずすみませんでした。) 県内各地の302校・園から3,840点の応募があり、その中から1,185点が優良作品となり、さらに113点が推奨作品として選ばれました。そして、その推奨作品の中から各学

年の話題作4点に本校奏輪学年の皆さんの作品が選定されました。この作品群は、新年度の夏に、秋田県で開催される全国造形教育研究会でも展示される予定だそうです。楽しみです。

感謝！ 図書ボランティア

冬休み中の1月9・10日に、図書ボランティアの方々が、生徒の読書意欲向上のために学校図書館の整備・模様替えをしてくださいました。二日間にわたり6名の方々が来校の上、蔵書の確認及び閲覧室の配置等を工夫してくださいました。思わず本を手に取りたくなる図書館になりました。ありがとうございました。



ところで、最近読んだ本で、「言葉は現実化する」があります。プラス思考や実現を願うよい言葉を使っていると、それに見合ううれしいことが起こり、マイナス思考の言葉ではその暗示にかかり悪いことが起こるといことのようなのです。古来から言霊信仰ということもありますが、言葉にすることでその意識が強くなることはあると思っていました。思いやりの言葉も含め、望ましいよい言葉を常に発することで、前向きなプラス思考の生き方ができるということはあるように思います。生徒にもそうあってほしいと思っております。いかがでしょうか。

大仙市中学生海外派遣 2名参加

1月11日早朝6時30分に、大仙市立中学校生徒海外派遣研修団が無事帰国・帰郷しました。この研修は、グローバル化がさらに進む将来を見据え、生徒を海外に派遣して、国際感覚を養うとともに国際理解を深め、将来地域の振興に寄与する人材を育成することをねらいに毎年行われています。

研修団は、市内から選抜された20名の生徒で、1月3日からオーストラリアのマンガリフォルズやケアンズで、ファームスティや自主研修テーマに基づいて研修をしてきました。楽しい思い出とともに全員無事に帰国しました。

詳しい報告会は、2月15日に市教育委員会



主催で仙北ふれあい文化センターにて行われる予定ですが、本校から参加した金子さんと佐藤さんには、学級や学年等でも機会を捉えてお話してもらいたいと思います。

なお、到着後、市役所で行われた解散式では、金子さんが研修生を代表して、貴重な経験ができたことを英語でスピーチしました。英語活用の経験が早速生かされたスピーチでした。お疲れ様でした。

健闘！ 中仙カップ招待バレー

冬休みの最終土曜日13日は、中仙カップ招待バレーボール大会があり、本校も参加しました。

予選リーグにおいて、ホスト校で結果として優勝した中仙・豊成中学校には0-2で敗れたものの、続く山内中学校戦は2-0で勝利しました。

そして、結果として3位入賞となった稲川中学校との対戦は、1セット目がデュースとなる大接戦でした。このセットを25-27で惜しくも落とし、敗れてしまいました。

大会全般として、声がよく出て、主将をはじめ2年生が堅実なプレーを見せ、1年生も経験を重ねる大会になったそうです。新人戦以降、確実な成長をみせるバレーボール部です。夏までに一段一段上ってくれることを期待します。

まずは、招待大会お疲れ様でした。

卒業生の活躍等 紹介

本校では、各学年の教室に行くためには玄関からの階段を利用しますが、その壁には、新聞等の報道によって紹介された、先輩の活躍紹介コーナーがあります。

最近の記事では、1月14日に行われた全国女子駅伝大会に秋田県代表として健闘した大曲高校2年生齋藤さんが紹介されています。他には、昨春、JR秋田の野球部に入った先輩、全県優勝をしてインターハイに出場したソフトテニス部の先輩、陸上競技や高校野球、バスケットボール等で活躍する先輩、書道パフォーマンスで全国大会に出場した先輩、ボランティア活動や地域活性化に貢献する先輩などです。昨年は全県優勝・全国大会出場の西仙北小学校野球スポーツ少年団も紹介して



おります。

自校の新聞記事等はもちろんのこと、先輩の各分野・各所での活躍は本校生徒の励みであり、これからの自分の生き方・キャリアを構想する上で、貴重な情報です。「先輩に憧れる、先輩のようにになりたい、また、自分もそうなれる可能性がある」、これも説得力のあるキャリア教育だと考えます。

西仙北中×和栄堂コラボ和菓子 第6弾！

3年生の佐々木くんの作品が商品化！

本校の2年生は、地域の自然のよさや美しさ、伝統などを形や色に置き換えて和菓子に表現する授業を美術科で行なっています。日本の伝統でもある和菓子は、五感の芸術とも言われています。自然物や気象現象などを豊かに感じ取り、形や色を省略したり強調したりしながら見ても美しい和菓子を粘土やレジンを用いて制作します。デザインの授業ですので、食べる人＝消費者のことを考え、地域のよさをより感じてもらえるように意識して発想し、つくっていくのです。

この授業の前には、国語科で清少納言の随筆「枕草子」(春はあけぼの…)を学び、それをもとに地域をモチーフとした随筆を書いています。生徒一人一人の随筆を、今度は美術科で和菓子にしていこう…という授業です。(現3年生の取組)

そこでできた和菓子の模型作品は、地域の菓子店和栄堂さんで展示をさせてもらい、その中から数点商品化していただく取組を続けてきました。

2018年春の和菓子は3年生の佐々木くんの作品です。佐々木くんは、西仙北地域の桜と月をモチーフにして、その美しさをきりっとしたラインを使って表しました。このデザインをもとに和栄堂さんがアレンジして商品に仕上げてくださいました。



「桜月夜 さくらづくよ」

一口食べると桜の香りが口いっぱいに広がります。外は色彩のない雪景色ですが、この和菓子を食べると春を感じて欲しいと思います。さらに、3年生が制作した和菓子の模型からインスピレーションを受けてつくった「桜のマドレーヌ」も！まだ試作品だそうですが、2月の大綱引きの頃には販売するそうです。2月10日の大綱引きの日、「にせんぼくHUBスペース」を大綱案内所として限定オープンいたします。そこで、昨年同様県内外からくるお客さんに和栄堂さんとのコラボ商品を振る舞おうと考えています。

「桜月夜」は、1月17日から和栄堂さんで販売するそうなので、ぜひみなさんお買い求めいただき、西仙北の春を感じて欲しいと思います。